

事業所における自己評価総括表

| | | |
|--------------------|-------------------------------|---------|
| 事業所名 | 大田区立障がい者総合サポートセンター 放課後等デイサービス | |
| 保護者評価 実施期間 | 令和6年12月18日 ～ 令和7年1月17日 | |
| 保護者評価 有効回答数 | 対象者数：36名 | 回答数：24名 |
| 従業者評価 実施期間 | 令和7年1月21日 ～ 令和7年1月31日 | |
| 従業者評価 有効回答数 | 対象者数：5名 | 回答数：5名 |
| 事業者における自己評価総括表 作成日 | 令和7年2月21日 | |

分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取り組み等 | さらに充実を図るための取り組み等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 区立施設であり学校との連携がとりやすい | 学齢期の発達障がい支援事業として実施しているため、常に所属校との情報共有に努めている。このため、学校訪問の日程調整も円滑に進めることができている。 | 訪問時の情報交換を発展させ、関係者会議の開催までできるとよい。 |
| 2 | 放課後等デイサービス専用スペースに加えて、未使用時に使える作業療法用デイルームがある | スケジュール調整をして、使える設備を最大限有効活用している。静と動のプログラムで部屋の使い分けをしたり、3～5名の小集団に分けて活動したりしている。 | 空間に加えて、必要な物品を揃えていくことで、より多様性のあるプログラム展開につなげていきたい。 |
| 3 | 専門的視点からの助言を支援に活かせる環境がある | 発達障がい支援事業の一環である個別支援を担当する公認心理師、作業療法士、言語聴覚士を機能訓練担当職員として非常勤で配置している。こどもの特性に応じて、必要な助言を得て支援に活かしている。 | 助言を発展させ、週1～2時間療育場面に直接参加する仕組みを検討していきたい。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 空間の構造化がしにくい | こども同士のトラブルが発生する機会が多く、その際、場を離れて落ち着かせたり、個別で話をしたりする空間がない。また支援室内に職員デスクや電話等があり、刺激の多い空間になっている。 | 支援室のレイアウトを変更して、職員デスクなど刺激の元となるものを減らしていく。一角にカームダウンスペースを設け、もめ事やパニックが発生した際に適切な対応ができるよう構造化していく。 |
| 2 | 利用期間に制約がある | 多くの区民に公平にご利用いただくため、1年間の有期限利用となっている。待機を生じさせない状態を維持しつつ、期間延長する判断が難しい。 | 利用期間終了後の生活に見通しをもっていただくことを目標に、短期間でも密度の濃い支援を行っていく。 |
| 3 | 屋外での活動が少ない | 屋外での活動は、公園遊びと買い物学習のみで、地域の社会資源や遠方への外出は行っていない。発達に課題があるこどもたちの小集団は、危険な状況がいつ生じるか予測が難しい。 | 長期休み中など時間的余裕のある日に、地域の社会資源へ外出するプログラムを実施していく。そのため人員の配置を見直していく。 |